生成AIと教員の知恵で
教育をもっとおもしろく

福岡市の生成AI活用と教育DX推進

福岡市教育委員会　指導部 教育ICT推進課
係長　清水　理



写真提供：福岡市

福岡市教育委員会について

自治体の規模

人口(R8.7.1時点)	1,671,893人
児童生徒	約130,000人
教職員	約8,000人
学校数	231校

小146校、中71校、特10校、高4校

GIGA2期のICT環境

Google Workspace for Education Plus

Chromebook:小学校・中学校

iPad:特別支援学校・高校

電子黒板(ChromeOS内蔵モデル)

特徴的取組

教育ICTコンテスト

教育ダッシュボード

内製アプリの利活用

生成AI活用研修

月1回の情報モラル教育

01　ガイドラインの作成

自律的な学び手の育成に向け、正しく、しっかり使う

【START】
文科省ガイドライン暫定版（令和5年7月）



子どもたちの夏休み課題への指導通知。制限的な記述があったため、まずは「校務利用」による教職員のリチラシー向上からスタート。

ドーン

活用ドリル・GASコード生成事例の発行



ICT通信を通じて、生成AI活用ドリルや業務効率化の事例を周知。教育ICT推進課でも内製アプリで効率化を実践。

ドンッ

文科省ガイドライン Ver.2.0（令和6年12月）



「限定的な利用」等の制限が撤廃。これを機に、福岡市でも学習利用の方向性を本本格的に検討開始。

ドンッ

学習利用の準備（令和7年4月）



事前チェックリスト、実践研究の周知。保護者同意の文例通知など、現場が安心して導入できる土台を整備。

キラキラ

パイロット校事業とプロンプト共有



校務利用の成果を交流するプロンプト共有サイトを作成。市内全域への展開に向けた基盤作り。

ドドン

Gemini / Gemini Notebook コアアプリ化（令和7年8月）



特定アプリの同意手続きを簡略化。子どもたちが守るべき約束事もあわせて通知。

全職員対象のAI活用研修



Gemini, Gemini Notebook, Canva AIの具体的な利活用法について、オンラインで全校研修を実施。

キキラ

福岡市生成AI利活用ガイドライン策定（令和8年7月）



オプトアウト設定により重要性分類IIIまで対応可能に、汎用AIと学習用AIの授業での使い分けポイントを提示。

【GOAL】
AIリテラシーを身につけた児童生徒の育成



学びの個別最適化、深い学びの実現、そして検索エンジンのように「普段使い」できるスキルの習得。

NotebookLM

生成AIで取り扱える情報を整理

・福岡市推奨の利用なら
　重要性分類Ⅲの情報まで
　利用可能とした

重要性分類	定　義	福岡市推奨の利用環境※	その他外部サービス
Ⅰ	セキュリティ侵害が、教職員又は児童生徒の生命、財産、プライバシー等へ重大な影響を及ぼす	×	×
Ⅱ	セキュリティ侵害が、学校事務及び教育活動の実施に重大な影響を及ぼす	×	×
Ⅲ	セキュリティ侵害が、学校事務及び教育活動の実施に軽微な影響を及ぼす	○	×
Ⅳ	セキュリティ侵害による影響をほとんど及ぼさない公開済み情報	○	○

※ Gemini,Gemini Notebook,Canva AI,Copilot Chat などオプトアウト設定が変更不可のものを推奨（いずれも教育版）

授業活用の3原則

◆基礎的な知識・スキルは、生成AIを使わずに
習得する場面を必ず確保する

◆教員が特定の学習目標を達成するため意図的に
計画した学習活動の中にAI活用を位置付ける。

「自由に使ってみよう」→ 学びにならない

◆児童生徒自身が、成果物の事実に誤りがないか
確認し、修正する活動を組み合わせる。

教育利用編

・思考を代替させない利活用を推奨

・AI抜きでの資質・能力を評価すること

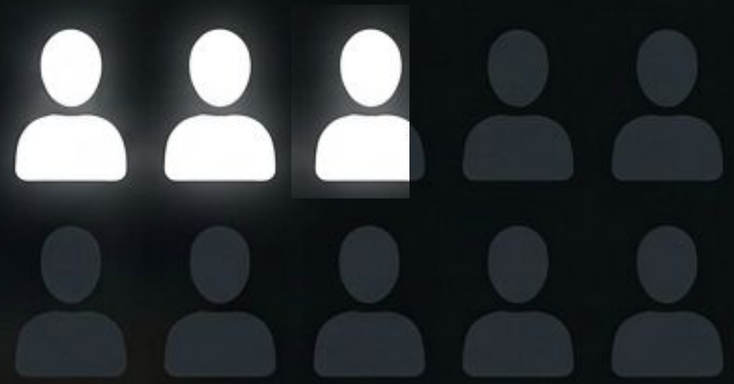
・カスタマイズした教育用生成AIツールの活用を行う

02　全教員研修

約8,000人の先生が「使える」に変わる

昨年度の調査より



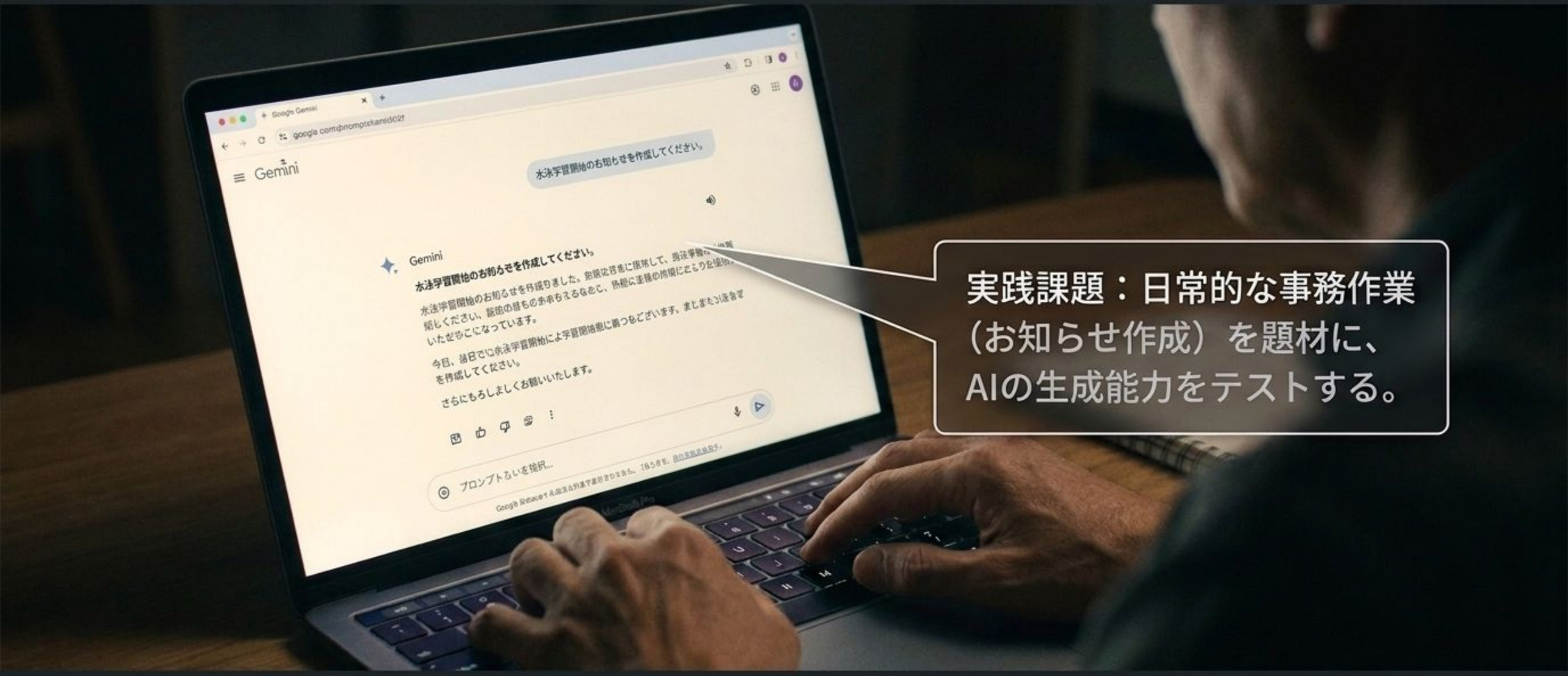


福岡市教育委員会による
小学校・中学校・特別支援学校への
調査結果より

「福岡市の教員における生成AI活用率は、まだ3割未満。」

Gemini Notebook

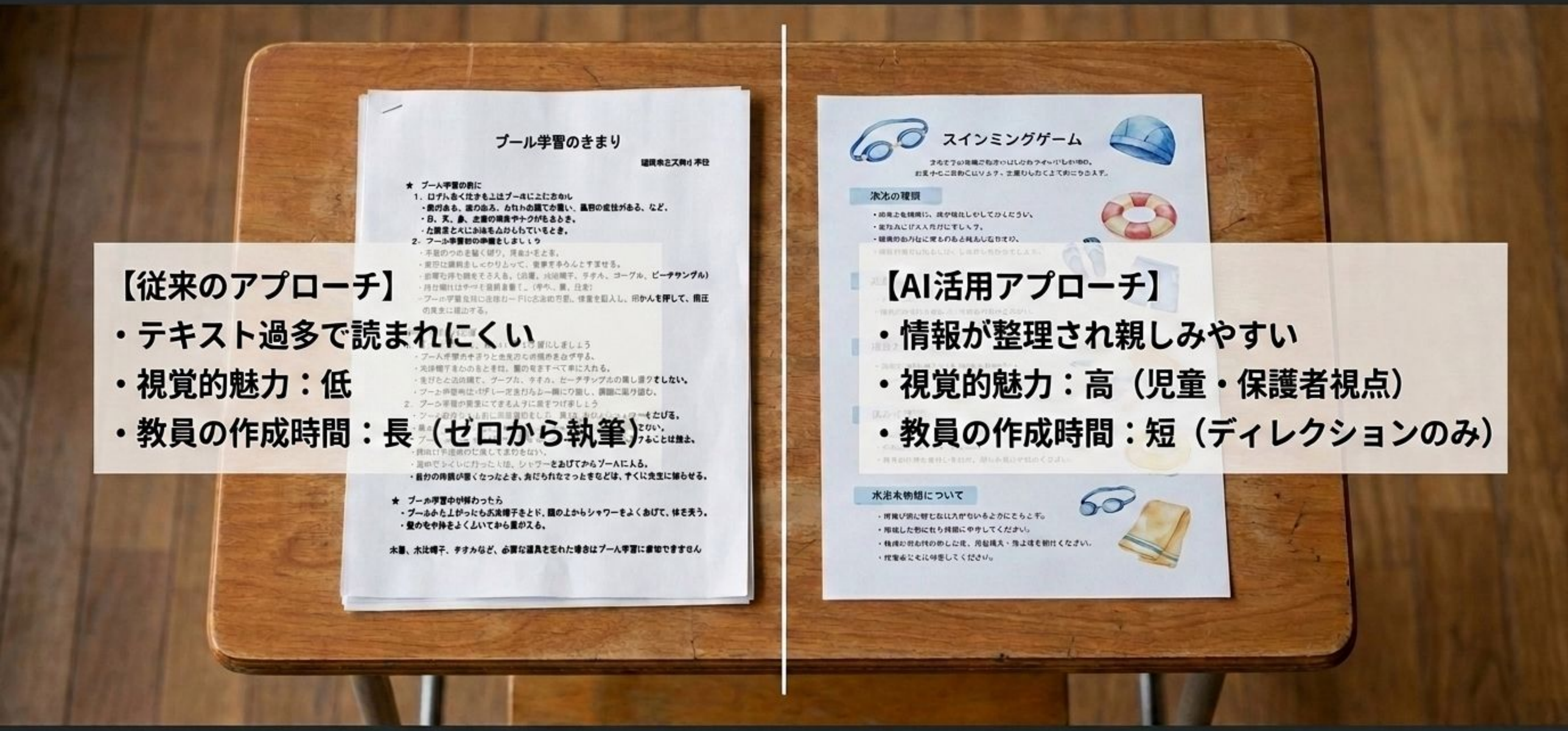
全教職員を対象にハンズオン研修を実施



「基礎知識を学んだ後、すぐさま実践へ。『水泳学習開始のお知らせ』の作成。」

Gemini Notebook

効果的な活用を学んだことによって



「文章いっぱいだと見れない。可愛いイラストがある方が、見ようと思いますよね。」

Gemini Notebook

教職員の意識に変化が



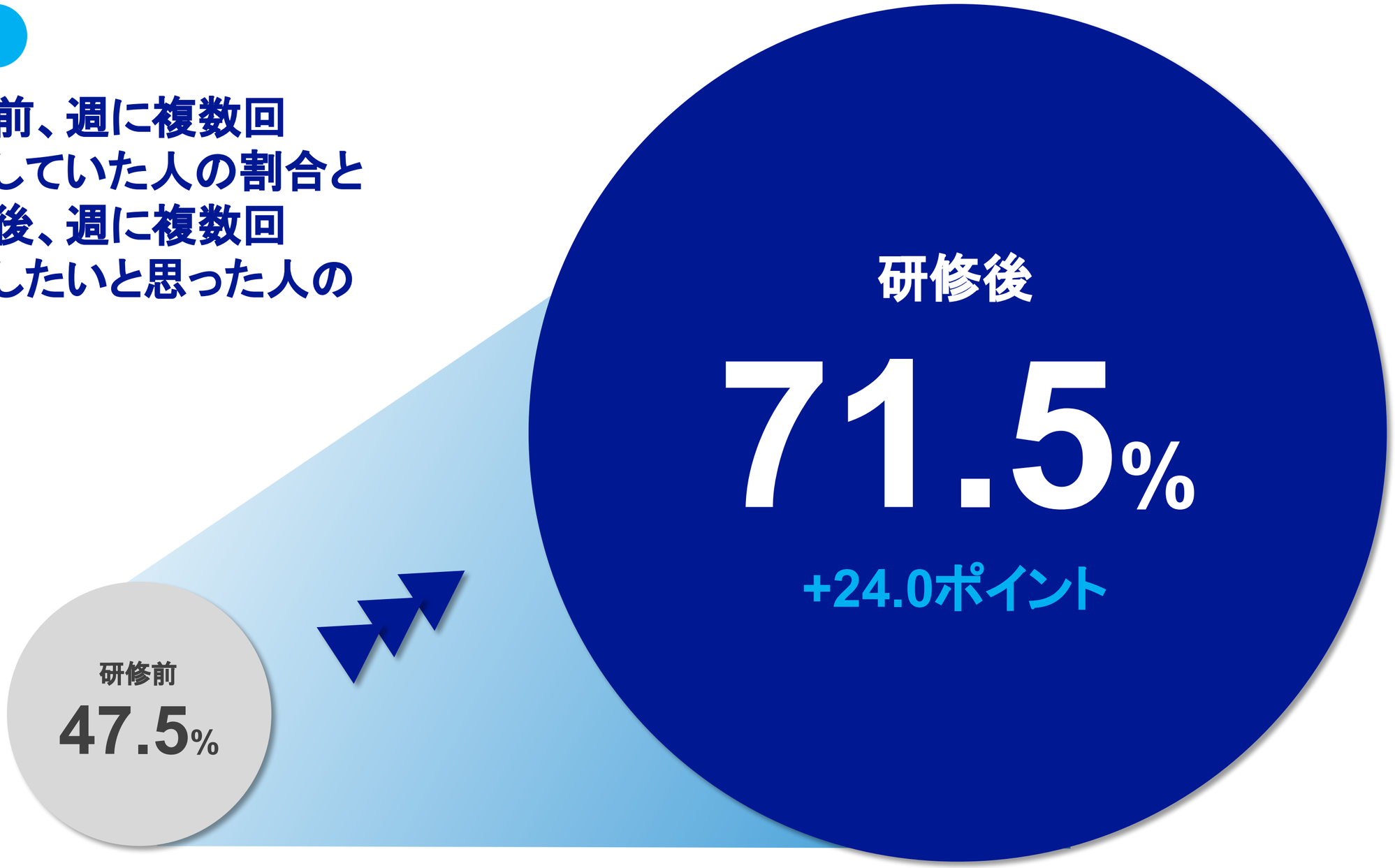
ゼロから作る
手作業に依存した
業務形態から
AIに指示を出す
業務形態へと転換

「短時間で叩き台が完成した。今後の文章作成や研修資料作りにも、ぜひ活用していきたい。」

Gemini Notebook

01

研修前、週に複数回活用していた人の割合と研修後、週に複数回利用したいと思った人の割合



02

研修前、ほぼ未使用だった人の割合と研修後、使うことはないと回答した人の割合

研修前

29.3%

−29.0ポイント

研修後

0.3%

約30人

03　授業実践例の紹介

AIの言う通りにしない子どもを育てる


生成AIの授業ってこんなイメージではありませんでしたか
カタカタカタ…

『AI編集長』と僕らの選択

生成AIは子どもから「思考」を奪うのか？ 4年2組の教室で起きた対話と決断



国語｜もしものときにそなえよう（光村図書4年）

防災マスターズブックを作成する！

姪浜小学校　令和8年9月

Gemini Notebook

思考をドライブさせる3つのステップ

STEP 1：もくもくタイム（個の対話）



AIとの1対1の壁打ち。
己の視野の漏れに気づく。

STEP 2：ふむふむタイム（協同の対話）



仲間との議論と検証。
AIの意見を疑い、相手意識を練り上げる。

STEP 3：自己決定（二次修正）

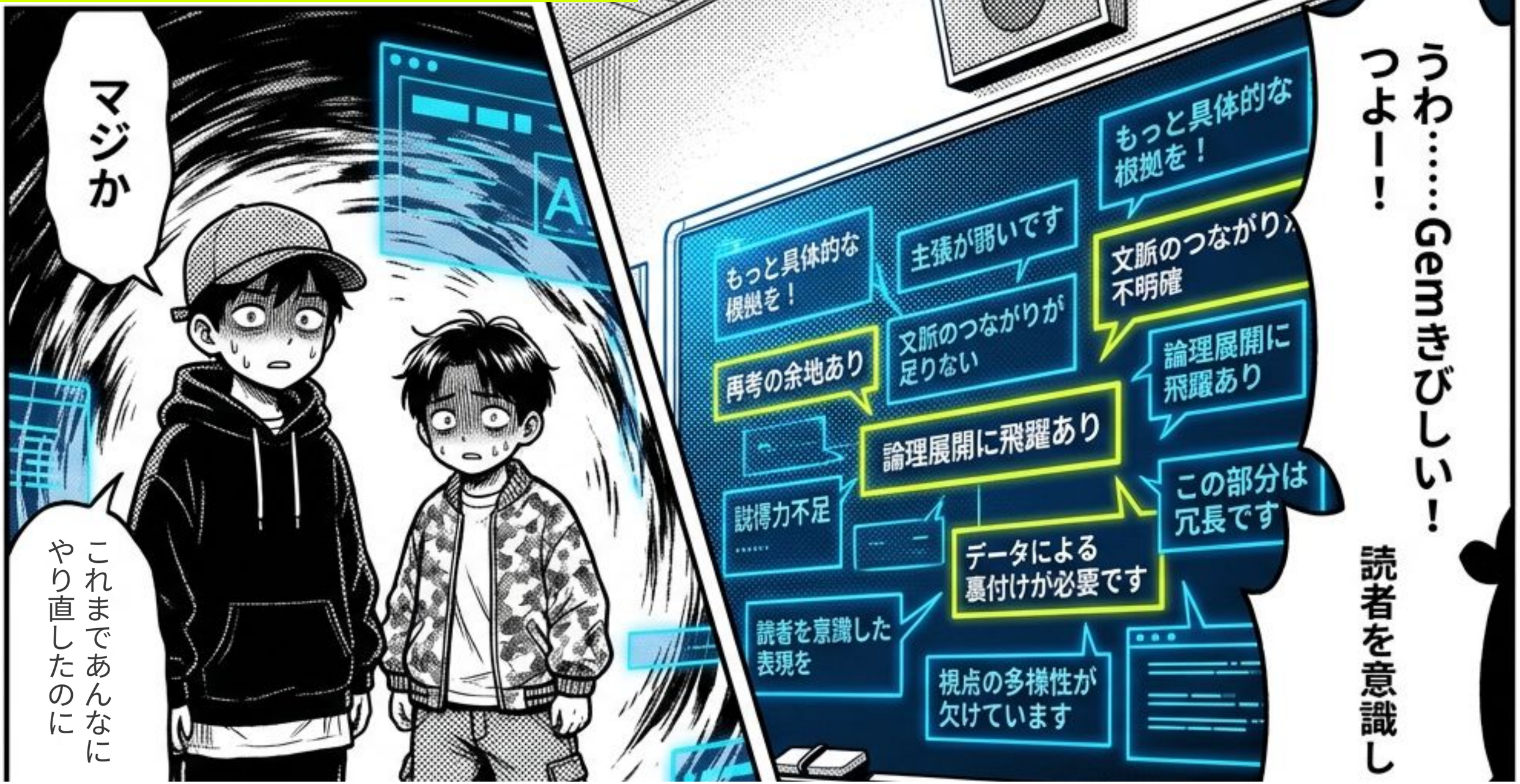


人間の意志による最終決定。
自らの言葉で紡ぐ。

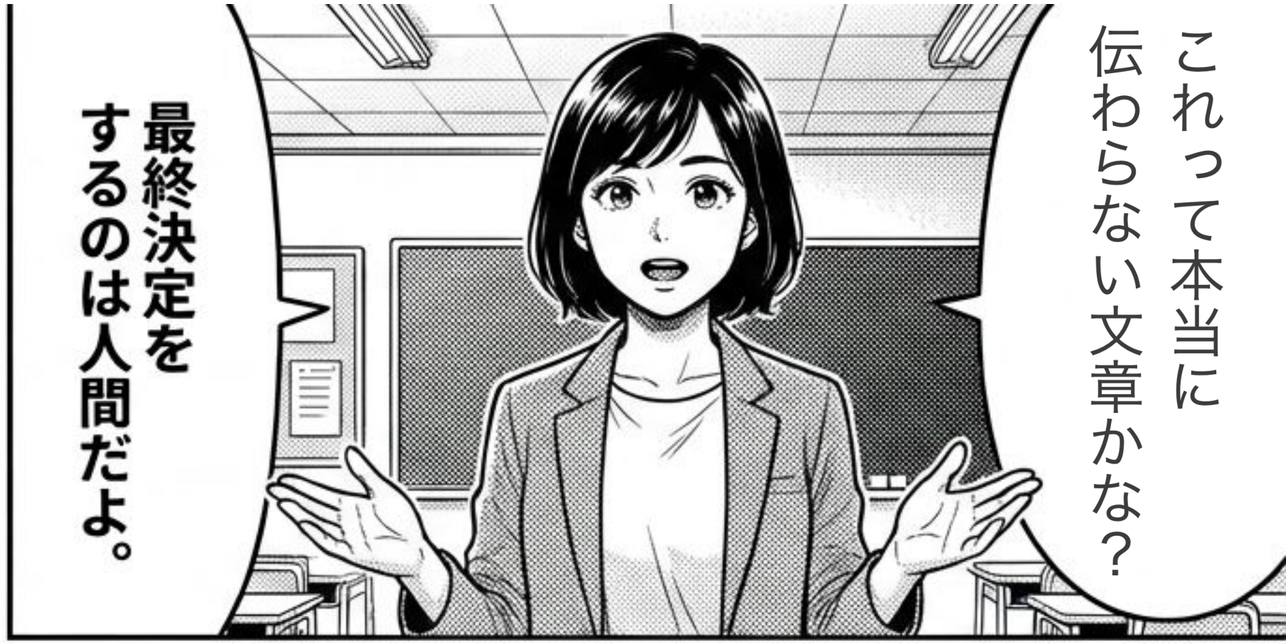
**このプロセスが、AIへの「依存」を防ぎ、
「批判的思考（クリティカルシンキング）」を覚醒させる。**

Gemini Notebook

STEP 0 | デモンストレーション







「Gem編集長はたくさんの知識を持っているから、鋭いところを突いてくるよね。

でもね、みんな。ちょっと**グループ**でさっきの資料を読み直してごらん。

・・・グループ活動・・・

『**AIはこう言ってるけど、**人間の目線で読んだらこれで十分伝わるよね』って

よく読んで、考えて、判断して、最終決定をするのは**人間**なんだよ」



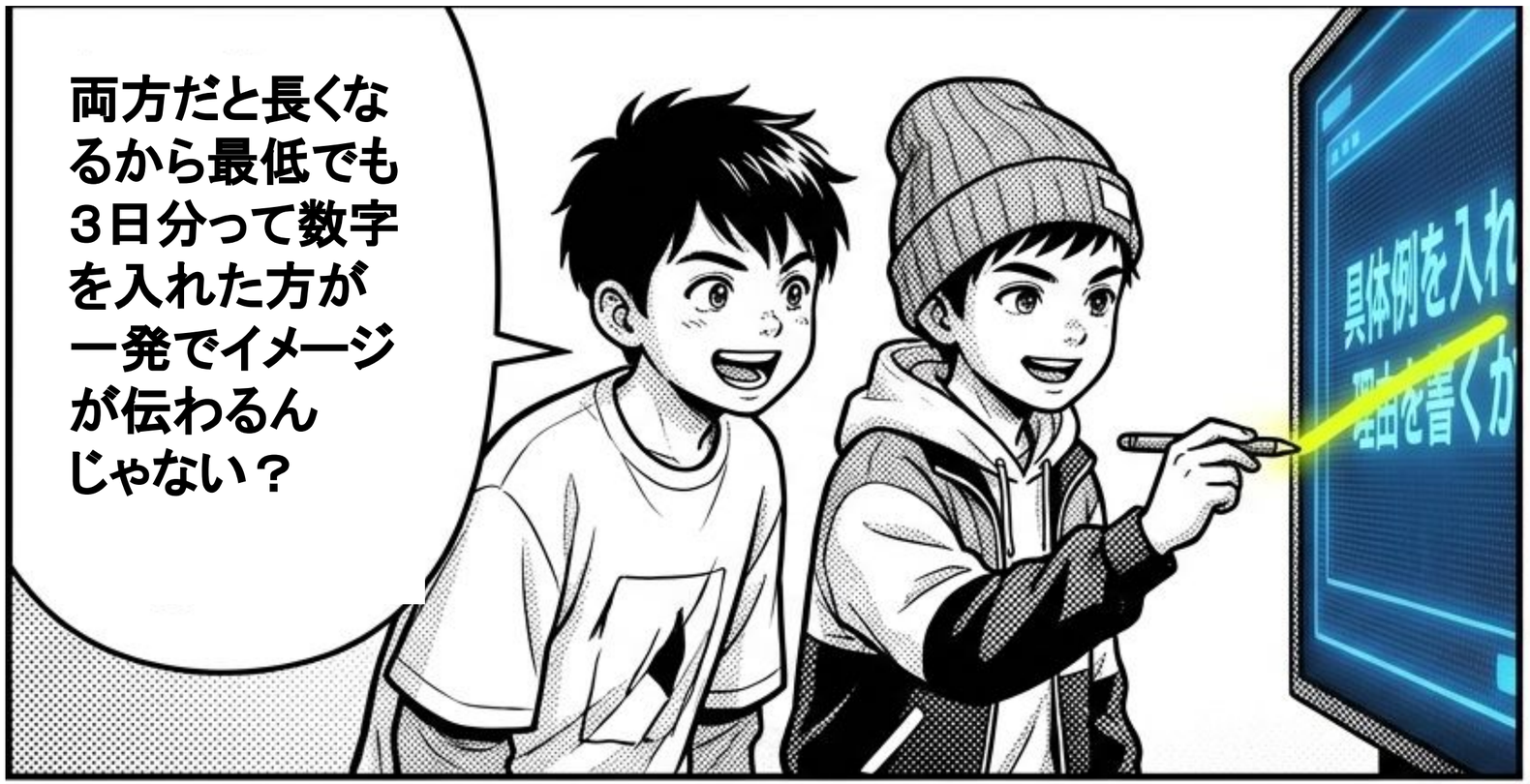
STEP 1 | AIと対話（一次修正）

まずは1人で

自分のChromebookで
Gem編集長 からの
アドバイスを受け取り、
一人で推敲する時間

Gem編集長は2つのことを返します





STEP 2｜グループで検討

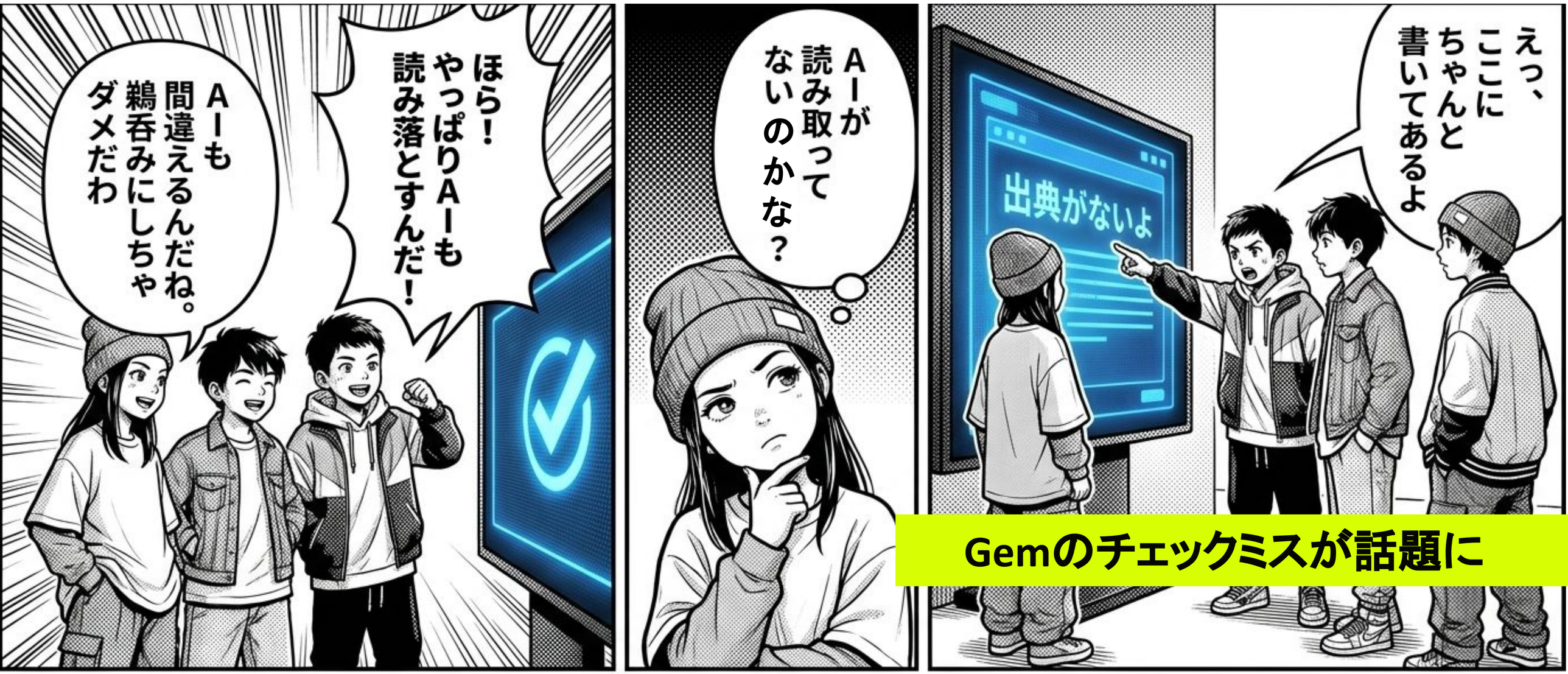
Gem編集長から提案されたのは次の2つ

A案｜最低3日分などの具体例を入れる

B案｜なぜそれが必要か理由を書く

どちらが良いかグループで話してみようと選択肢を提示する


STEP 3 | 自己決定し修正する
AIの言う通りになんて、しない。
自分の言葉で、伝えるんだ。
【二次修正】
グループの友達のアドバイス、資料、学習カードをもとに自分の文章をクロームブックでタイピングして修正する。
Gemini Notebook



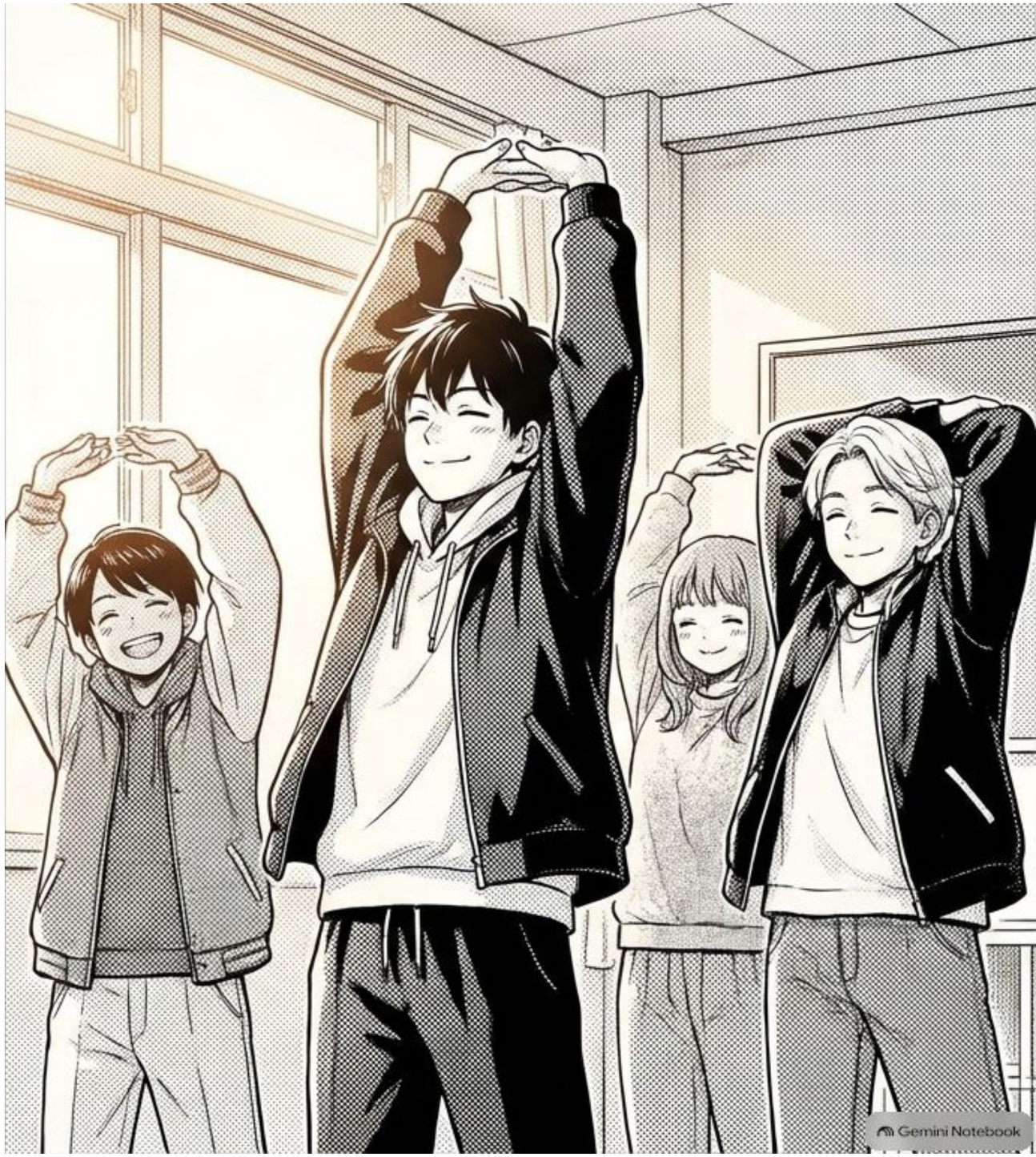
Gemのチェックミスが話題に

AIのアドバイスをそのまま「正解」として受け入れるのではなく、
「人間である自分たちの目で見たらどう見えているか？」
「本当にAIは正しいことを言ってるか？」を疑い、友達同士で検証した。

Gemini Notebook

孤立した学びではなく
より深い協働へ

生成AIは、子どもたちを画面に向かって孤立させるのではなく、グループで画面を囲み、これまで以上に深く言葉を吟味し合う協働の空間を生み出しました。



04　バイブコーディング研修
・
内製アプリ

先生の「あったらいいな」を自分たちの手で

バイブコーディング研修の様子

※写真を撮り忘れたため AIで作成したイメージ画像です。









能古島小中学校 生成AIパイロット校事業 授業公開
令和8年11月17日



内製アプリストア

各学校から投稿 →教育委員会にて審査
GASの内製アプリを共有


生成AIと教員の知恵で
教育をもっとおもしろく
写真提供：福岡市

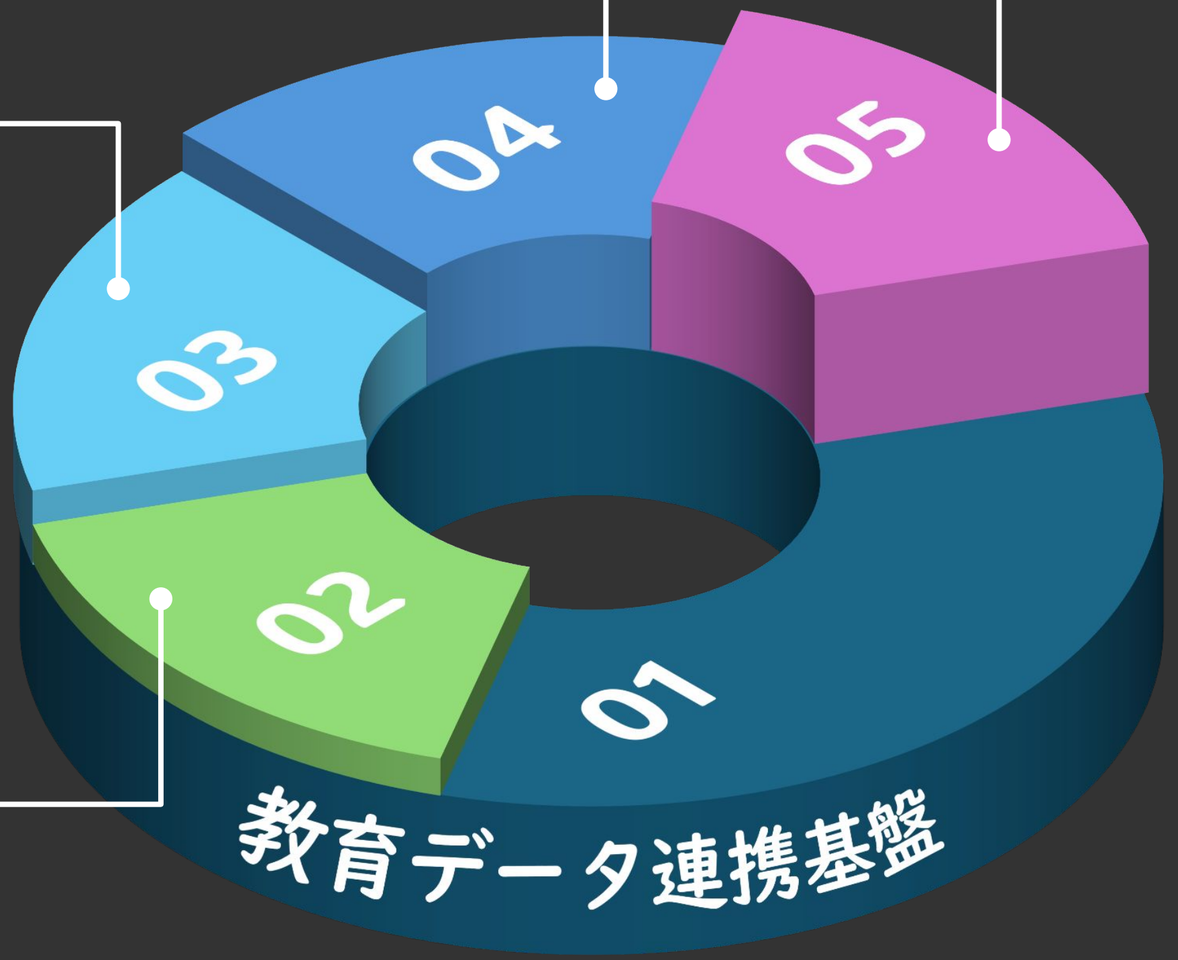
教育DX 5 STEP

教師の学び
AARサイクルで実践を振り返り、次の指導・研修へ

授業DX
ICT・生成AIを生かした自律的な学びの質が向上

時間の創出
教員に子どもと向き合う時間の余白が生まれる

校務DX
採点・連絡・会議のデジタル化、生成AIによる資料作成支援など



教育データ活用でめざす姿

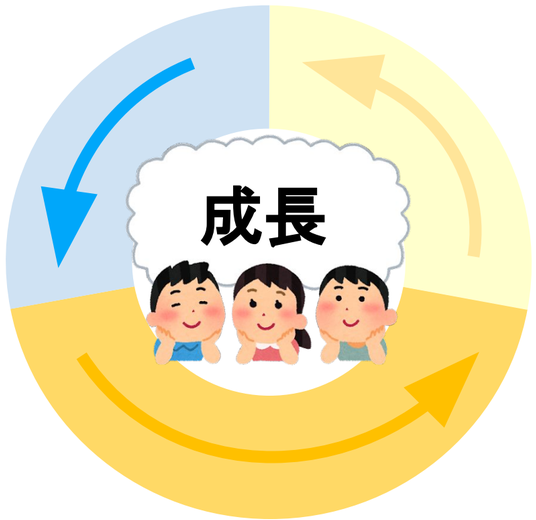
ダッシュボード
学校管理者、教職員、教育委員会が活用

アラート機能で
プッシュ型支援

日々の**子どもの状態**を可視化

・子どもの学力の変化や心の状態の変化に
いち早く気づき、個々の状況に応じた、
きめ細かな指導や支援を可能にしていく

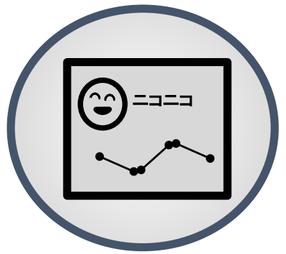




児童生徒振り返り画面
児童生徒、保護者が活用

子どもの**学びの様子**を可視化

・子どもが、自ら課題を発見し、目標や方法
を決めて学ぶことができるようになる
・保護者が、子どもの学校での様子を知ること
を可能にしていく



分析システム
主に教育委員会、学校管理者が活用



蓄積データをもとに、変化の要因を分析

・子どもの学力や心の状態が変化する要因を分析し、
効果的な指導や支援の方法、教育施策の立案を可能にしていく

AI活用を検討

スケジュール



令和5～6年度

教育データ連携基盤
プロトタイプ
構築
モデル校での
試行検証



令和7年度

教育データ連携基盤
構築開始

一部校操作研修

校務系端末と
指導者用端末の
統合

令和8年度

一部校試験運用

教員操作研修

クラウド版
校務支援システム運用

令和9年度

本格運用開始

